日本音楽芸術マネジメント学会　第15回春の研究大会
2023年3月26日　於　武蔵野音楽大学

読書会を通じた
新たなクラシック鑑賞の提案

NPO法人Talking 代表理事　日渡健介
hiwatashi@npotalking.org
立命館大学　先端総合学術研究科　西澤忠志
tknnszwtds@gmail.com

自己紹介

Talking
NPO

- 2010年より読書会活動開始
- 2013年より本の読み方の
  ワークショップを提供
- 2020年8月より音楽の読書会開始
- 2021年NPO法人化
- 2022年新日本フィルハーモニー
  交響楽団とのイベント開催

本発表の背景

クラシック音楽の聴取層の動向

- 高齢者世代は鑑賞者の比率が高く、実数も多い
- 今後、高齢者世代の老化により鑑賞者が大きく減少することが予測される
- 若年世代の鑑賞者の比率は変化していないが実数は減少
- 習い事と就職などにより聴かなくなる（井手口、2022）
- 吹奏楽部や音大生など楽器経験者が聴衆に育っていない

➢鑑賞人口の維持（クラシック界の持続可能性）には、若い世代が積極的にコンサートに運んでもらう必要がある

クラシック音楽の愛好者を増やす活動

- レクチャーコンサート
- ワークショップ・参加型プログラム（伊原, 坂本 2021）
- インタラクティヴ・コンサート（久保田 2019a）
- 流行作品をとりあげたコンサート
- 会員制度（西田, 多幸, 大澤 2020）

➢クラシック愛好家や児童向けのものが多く、新規の若い鑑賞者獲得への有効なアプローチに乏しい。

音楽の読書会について

企画の概要

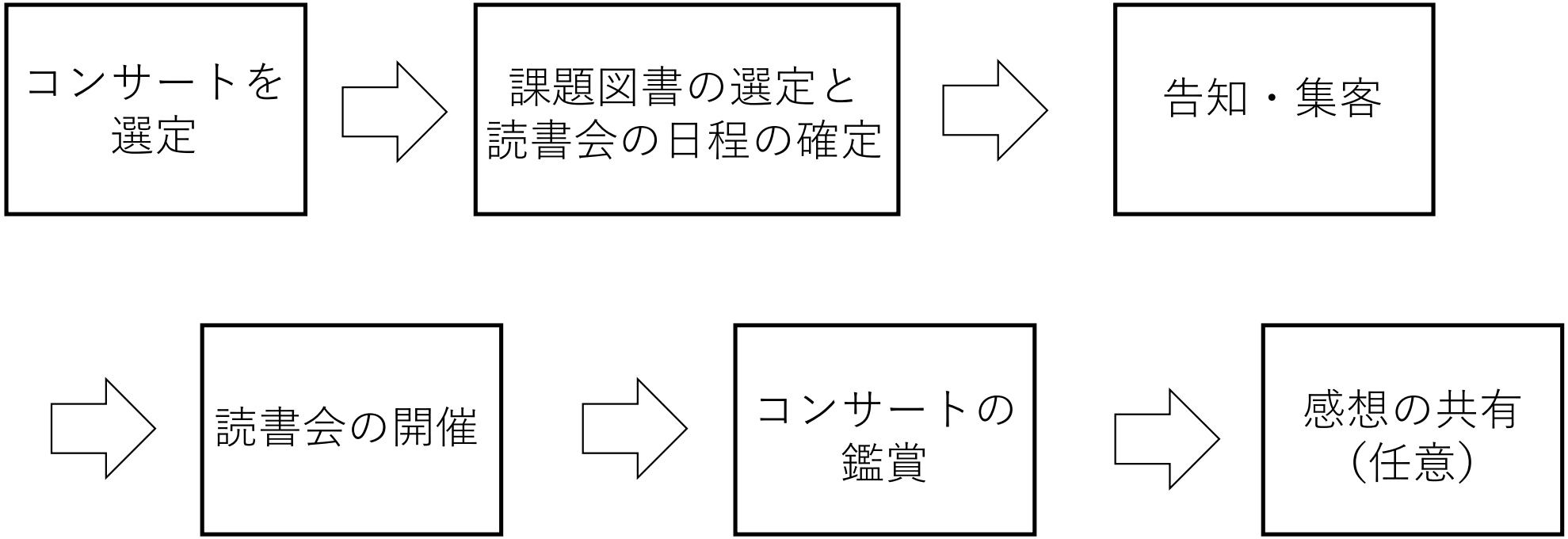
- 新日本フィルハーモニー交響楽団の協力のもと、10代～30代の学生・社会人を対象にした読書会を開催し、その後、コンサートを聴きに行く。
- コンサートへの参加条件は、課題図書を読んで読書会に参加すること。
- 読書会参加者には無料でコンサートに招待。
- 参加者は各回30名程度。

企画に至った経緯

- コロナパンデミックによって読書会のオフラインでの開催が困難になる
- オンラインでYouTubeなどインターネット上のデジタルメディアを活用した音楽の読書会をはじめる
- 新日本フィルハーモニー交響楽団と知り合い、オンラインとリアルな鑑賞を合体したコラボレーション企画を実施することとなる

➢デジタル化したポストコロナ時代の音楽鑑賞への示唆

企画のプロセス


コンサートを選定
課題図書の選定と読書会の日程の確定
告知・集客
読書会の開催
コンサートの鑑賞
感想の共有（任意）

実施したコンサート

第1回：2022/1/ 27 トリフォニーホール、1/28 サントリーホール
・課題曲：モーツァルト「ジュピター」
・指揮：佐渡裕

第 2 回：2022/4/16 トリフォニーホール　（スピンオフ企画）
・課題曲：ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」
・指揮：久石譲

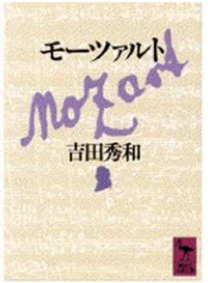
第3回：2022/7/11 サントリーホール
・課題曲：バルトーク「弦楽器と打楽器とチェレスタのための音楽」
・指揮：クリスティアン・アルミンク
（墨田区ひきふね図書館ボランティアと開催）

課題図書

・モーツァルト

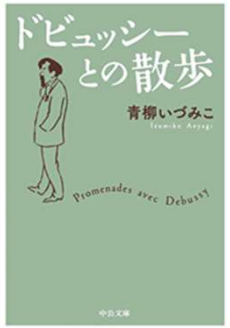
『モーツァルト』吉田秀和著（講談社学術文庫）

『よみがえる天才３モーツァルト』岡田暁生著
（ちくまプリマー新書）



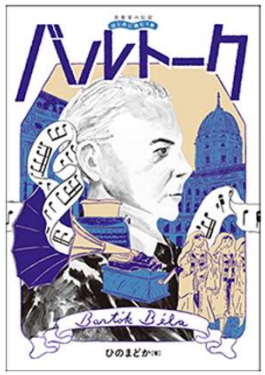
・ドビュッシー

『ドビュッシーとの散歩』 青柳いづみこ著（中公文庫）



・バルトーク

『音楽家の伝記　はじめに読む１冊　バルトーク』
ひのまどか著（YME）



読書会のプロセス

- 企画の概要説明（10分）
- 自己紹介（20分）
- 作曲家や演奏会についての簡単なレクチャー（15分）
- 本の感想の共有・議論・音楽視聴（50分）
- 読書会の感想の共有（15分）

読書会の特徴

- 本による自学自習
- 参加者同士のコミュニケーションによる学び

  ex)楽器経験の有無、楽器や趣味の違い
- 補足的レクチャー

  ex)ソナタ形式、ウクライナ戦争との関係
- YouTubeなどデジタルメディアでの鑑賞

  ex)様々な指揮者や楽団の音楽を聴き比較できる

コンサート鑑賞

トリフォニーホール

サントリーホール

感想会での反応

- 「バルトークを事前にYouTubeで聴いた。実物で聴いたほうが感動的。本来のバルトークなんだなと感じた。一人一人のオーケストラの方と指揮者とのインタラクションがみられてすごいと思った。」

- 「リズムや音程が難しそう。練習するうえでどういうところに気を付けたか？どれくらい練習したか？」

本企画による参加者への効果の検証

分析方法

- アンケート調査
- インタビュー調査

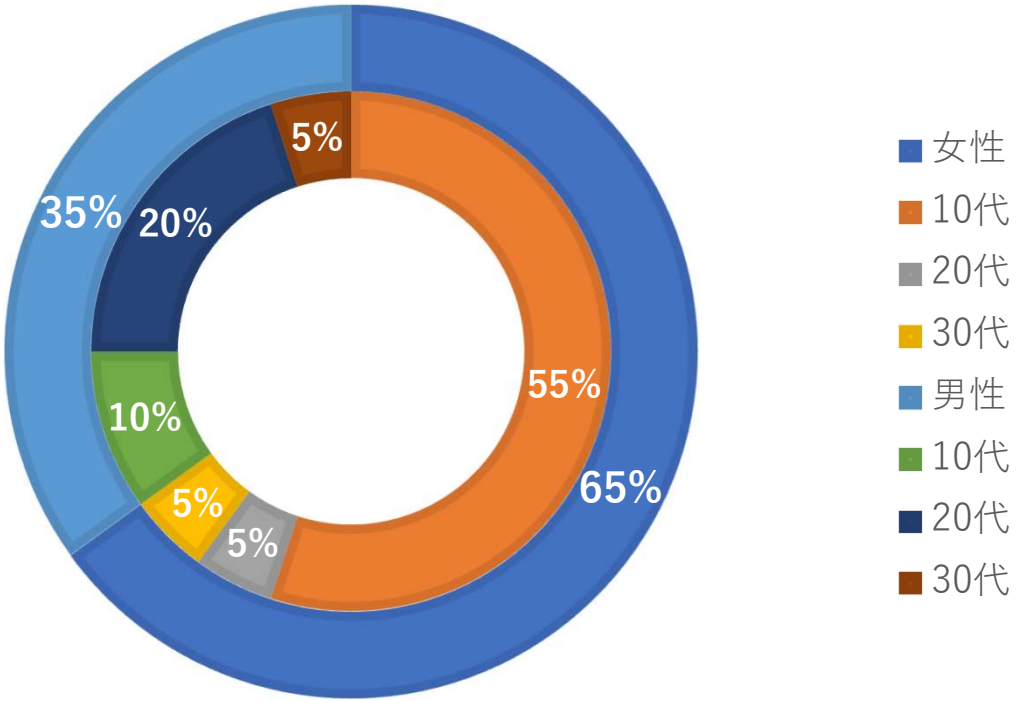
⇒目的：参加者がどのような点に興味を持ったのか？
この企画を通じてどのような行動をした？

アンケート調査の概要

- 対象…読書会と演奏会（7月11日）の参加者
- 実施方法…グーグルフォームにて実施
- 実施期間…2022年7月20日～31日
- 項目…性別、年齢層、演奏経験、聴取経験
  参加前のクラシックコンサートへのイメージ
  参加後のクラシックコンサートへのイメージの変化
  ベーラ・バルトークへの興味の有無
  クラシックコンサートへの関心の有無
  新日本フィルハーモニー交響楽団への関心の有無
  クラシックコンサートに今後も行きたいと思うかどうか

アンケート調査の概要

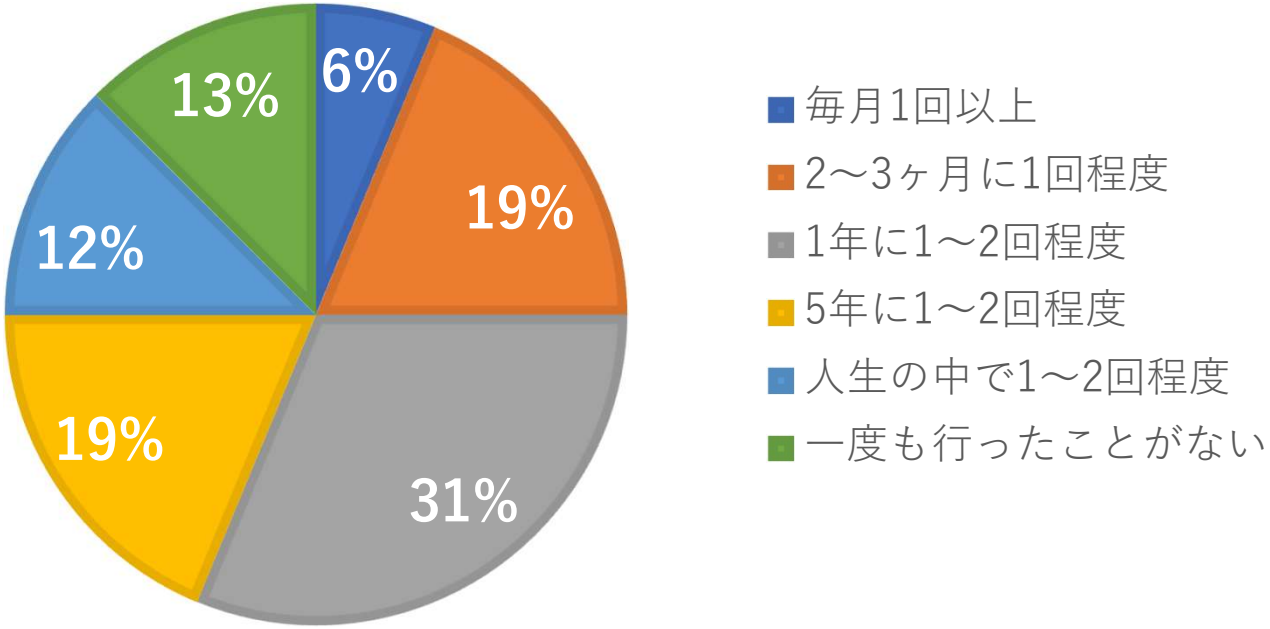
図1　アンケート回答者（N=20）



アンケート調査の概要

図2　演奏経験者の演奏会への聴衆としての参加経験

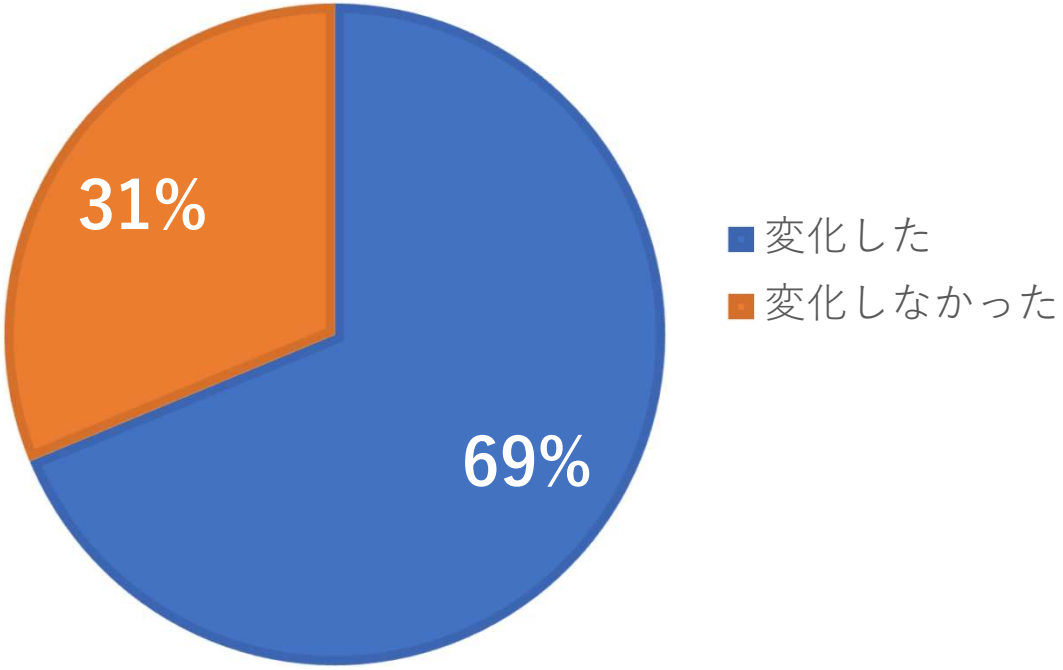
（N=16）



※「コンサートなどによる
クラシック音楽鑑賞」の15～19歳
女性の平均行動日数…6.2（年/日）
出典：令和3年社会生活基本調査

アンケート調査の結果

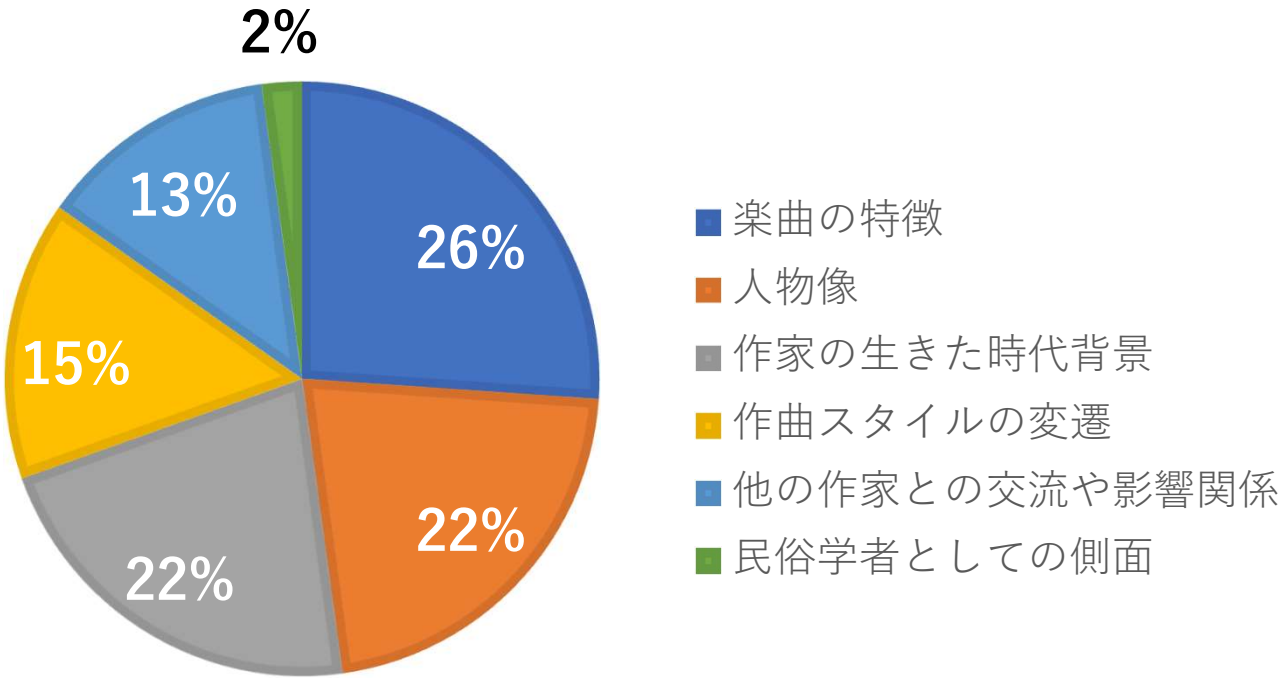
図3　本企画を通してクラシックコンサートに対するイメージは変化しましたか？（N=16）



アンケート調査の結果

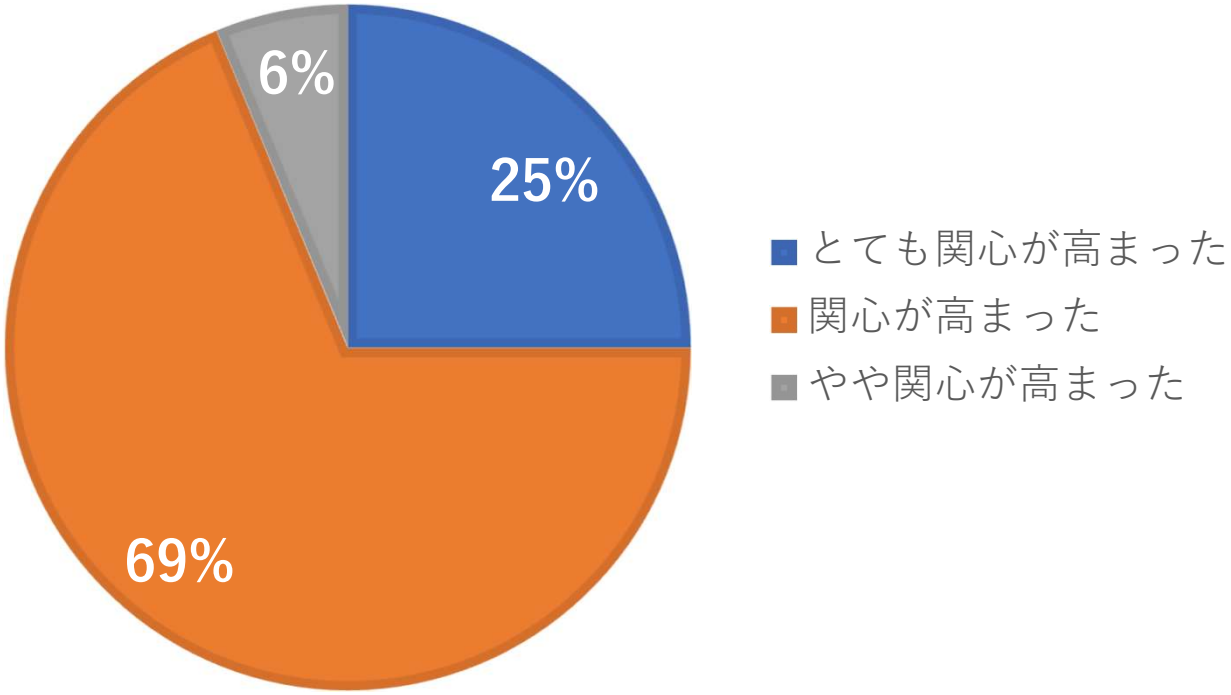
バルトークに対する関心…全員が高まる

図4　バルトークのどのような点に関心を持ちましたか？（N=16）



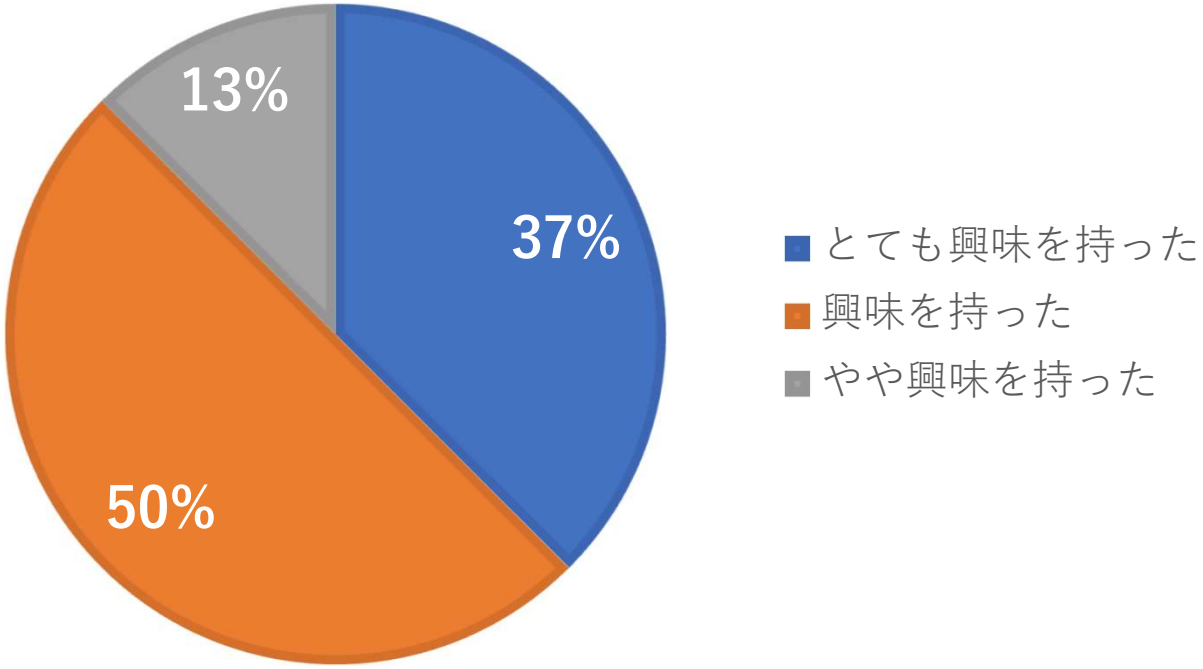
アンケート調査の結果

図5　本企画を通してクラシックコンサートに対する関心は高まりましたか？（N=16）



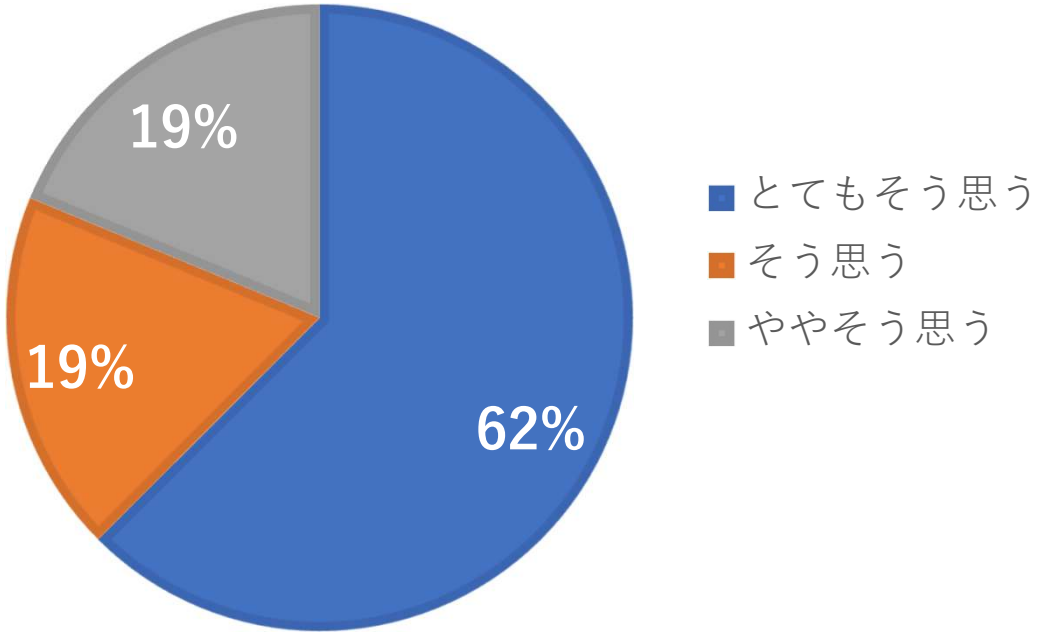
アンケート調査の結果

図6　本企画を通して新日本フィルハーモニー交響楽団に興味を持ちましたか？（N=16）



アンケート調査の結果

図7　本企画を経験してクラシックコンサートに今後も行きたいと思いますか？（N=16）



※補足
高校オーケストラ部顧問からのコメント

- 学内演奏会で校長先生から「近年で最も良い演奏」と評価
- 全国高等学校選抜オーケストラフェスタへの応募人数の増加

例年：０～２名募集、１名通過

昨年度：６名応募、３名通過

➢部活動での音楽活動の活性化

インタビュー調査の概要

- 対象：
  演奏経験とコンサートでの鑑賞経験は無いが、
  今回の企画に2回参加した10代、20代の2名
- 目的：
  楽器・クラシック音楽コンサート未経験者の行動変容
- 聴いた内容…半構造インタビュー
  今回の企画を経験したことによる、クラシック音楽に
  対する捉え方の変化

インタビューA（22歳：大学院生）

クラシック音楽に対しては堅苦しいハイソサエティの音楽というイメージがあったが、今回の企画をとおしてもっと気軽に楽しめるものだとわかった。これまで**興味を持っていても、曲も楽器もわからず、どこに興味を持っていいか、どう楽しんでいいか見当がつかなかった**。イベントに参加し、クラシックに対する理解が深まり、作曲家を身近に感じるようになった。

読書会では、**自分の感じたことを言語化することで自分のものの見方に気づく**ことができた。また、他の参加者の多様な意見にも触れることできるのも大きな魅力で、楽器の経験や好きな音楽が異なる参加者と話す中で、**音楽の楽しみ方は十人十色で、一つの正解があるわけではないと感じた**。正解があると思うからわからないことを不安に思ったり恥ずかしく思ったりするのではないか。意見を交換する中で自分の楽しみ方の幅が広がっていくのを感じた。

クラシックファンを増やすためにマンガや小説などで扱われている作品のコンサートをやることがある。しかし、単にクラシックとの距離を近づけるだけではファンにはならないと思う。**クラシックを聴くことの本質的な喜びに触れて感動した時にその音楽のファンになる**のであって、この企画を通してそうした経験ができたように思う。

インタビューB（18歳：高校生）

クラシック音楽に興味はあったが、**どうやって入っていけばいいかわからなかった**。クラシック音楽を自然と楽しめるのは親がクラシック好きか、自分で楽器を習っているなど文化資本が豊かな人ではないかと思う。そのような背景のない自分にとっては、**演奏も普段聴くものより長く飽きてしまい、とにかく最初の1歩がとても重かった**。

今回のイベントでは「クラシック音楽」ではなく、**「モーツァルト」という一人の人物から入ったことでハードルが下がった**ように思う。クラシックの作曲家は神格化されたイメージがあるが、読書会をとおして一人の人間として作曲家と向き合うことで身近なものに感じた。**好きなミュージシャンのライブに行く感覚**でモーツァルトのコンサートに行けた。

単にクラシック音楽に触れる機会を増やせばクラシックが好きになるわけではないと思う。クラシック音楽を楽しむには踏むべきプロセスがあると思う。それは**音楽を理解しようと努力すること**であり、音楽を聴く際にはいつの場合にも求められる普遍的なものだと思う。この理解するというプロセスを楽しむことが必要ではないだろうか。

実際に聞いてみて**今まで人生で聴いた音の中で一番美しい音だった**。ロックやヒップホップのライブと違い**スピーカーを通さない楽器そのものの音に触れるのはクラシック音楽の大きな魅力**の一つだと思う。クラシックを聴いたことで、自分の好きな**他ジャンルの音楽の聴き方にも変化**があり、細かな音を聞き分ける分析力や音を言語的に捉える感覚、曲を構造的に聴くための枠組みが自分の中にできたように思う。

考察

なぜ読書会が有効だったか

A）能動性の獲得

・本を読む中で自分の感じたことを蓄積する
・読書会で考えを述べることで自分の考えに自覚的になる
・単なる「背景知識」が鑑賞のための「語彙」となる

➢レクチャーコンサートとは違った能動的な鑑賞体験になる

なぜ読書会が有効だったか

B) 他者の意見に触発される

・読書会を通して自分と背景の異なる人の意見に触れる。
・様々な角度から音楽を捉える視点が得られる。
・多様なエントリーポイント（久保田、2019b）の獲得

➢多人数での音楽体験の面白さを知る。
※個人化しすぎた日本の音楽文化（ピアノ、レコードの影響？）

なぜ読書会が有効だったか

C）デジタルメディアと生演奏の往復

- インターネット上の多数の音楽を聴きながら学習、議論ができる。
- デジタルメディアに多く触れることで、生演奏へのモチベーションがあがる。
- コンサート会場という非日常の体験への満足度が上がる。

読書会導入のメリット、デメリット

A)メリット

・低コストで誰でも簡単に始められる
・図書館や学校などのコラボレーションもしやすい
・教育的効果も期待できる

B)デメリット

・課題図書の関係で扱えない作曲家が多数存在する
・ファシリテーターの能力で議論の質が変わる

今後の課題

- 調査の妥当性の詳細な再検証
- 教育効果についてのより詳細な研究

参考文献

- 井手口彰典 2022 「年齢層から見た国内のクラシックコンサート・ゴアーの変化－－「社会生活基本調査」からの知見を中心に」『応用社会学研究』64号: 11-28
- 久保田慶一 2019a『新・音楽とキャリア　音楽を通した生き方・働き方』国分寺：スタイルノート
- 久保田慶一 2019b『新しい音楽鑑賞－－知識から体験へ』東京：水曜社
- 総務省統計局 2022 『令和3年社会生活基本調査結果』（ https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/kekka.html ）最終確認2023年3月23日
- 西田紘子,リシェツキ多幸,大澤寅雄 2020「日本の地域プロ・オーケストラにおける会員制度の課題と展望－－九州交響楽団を例に」『音楽芸術マネジメント』12号: 63-71
- 森薫 2022『子どもたちは音楽科授業にいかに参加しているか－－知識と探究のマイクロ・エスノグラフィ』東京：ミネルヴァ書房
- 山梨あや 2011『近代日本における読書と社会教育－－図書館を中心とした教育活動の成立と展開』東京：法政大学出版局
- Kreutz, Gunter, Emery Schubert and Laura A. Mitchell. 2008. “Cognitive Styles of Music Listening”. *Music Perception* 26 (1): 57–73.

ご清聴ありがとうございました

本発表は、新日本フィルハーモニー交響楽団様、小田垣宏和様（図書館パートナーズ代表）、読書会参加者の皆様に、ご協力いただきました。